



▼公民館主催講座のご案内  
町民大学閉講式の開催について

●町民大学 講話および閉講式

- ・日時  
3月30日(火) 午前10時
- ・会場  
町生涯学習センター・ホール
- ・講話  
○演題  
「肩、腰、ひざの痛みの解消法について」  
○講師  
松尾 洋さん(くまもと健康支援研究所長)
- ・閉講式 午前11時30分開式

多くの皆さんの出席をお待ちしています。

▶第4回町民大学  
「植木市見学」を開催

1月27日(水)の第4回町民大学は、県農業公園(合志市)を訪れ「植木市見学」を行いました。



▲大にぎわいの植木市を見学し、買物を満喫した参加者

ともに、農産物や加工品などの即売も多数出店。当日は、春が訪れたかのような暖かさに恵まれた見学日和で、52人

春の訪れを告げる恒例のJ A植木市には、庭木や花、鉢物など約120万点が並ぶと

が参加。多くの人出のにぎわいの中、一軒一軒立ち寄ってお目当ての苗木などを前に生産者のアドバイスを聞いたたりして、買い物を楽しみました。

60歳代の女性は、「毎年楽しみにしています。植木市を通して、たくさんの方々と顔見知りになれてよかったです」と、買い物袋を両手に抱えて会場を見学しました。

▶こども講座  
バレンタインチョコ作り

2月13日(土)の「こども講座」は、「バレンタインチョコレイト作り」と題して、町農業研修センター調理室でクランチチョコレイト作りをしました。参加者20人。白と黒の2種類のチョコレイトを砕いて湯せんにかけて



▲おいしくてかわいらしく完成した手作りお菓子

蔵庫で冷やし固めて、クランチチョコバーを作りました。また、チョコが固まるまでの時間を利用して、ホイップクリームを使ってデコレーションするカップケーキ作りにも挑戦。最後に、手作りチョコとケーキをラッピングしてかわいらしくリボンをつけて完成しました。

ゆっくり混ぜて溶かすと甘い香りが漂い始め、子どもたちはわくわく気分。溶かしたチョコにシリアルを混ぜて冷

LIBRARY

私が紹介する本は、『いのちのえんぴつ』という本です。

この本の主人公の加純ちゃんは、10歳のとき、脳幹がはれてしまう病気にかかってしまい、体にマヒが残ってしまって、体のバランスをとることが難しくなり、車いすで生活をしている女の子です。

今月の案内人



渡邊 奈々さん  
(大町区)

加純ちゃんは体育の授業に参加できないので、小山内先生と一緒に過ごしています。あるとき加純ちゃんは、小山内先生からドイツで買って

～My Favorite Story～  
■図書室だより■  
私のおすすめ図書

『いのちのいろえんぴつ』(豊島 加純詩/絵)

10歳で脳腫瘍を発病し、車いすで通った学校。広大な自然の中で少女がつづった命の詩と絵をまとめた、生きることへの素直な気持ちがいっぱい詰まった一冊。

きたノートとえんぴつをもらいます。そのノートに加純ちゃんは、思い通りに動かない手で、「十二色」という詩を書きます。

私は、右手が動かなくなったら、左手で字が書けるように練習をする加純ちゃんをすごいなと思いました。また、自分の車いすを押してくれる友だちのまゆちゃんが、加純ちゃんの手伝いをするのでほかの友だち

と遊べないことを、加純ちゃんはとてもつらく思っていました。私は、自分の体が不自由なんだから、他の人に手伝ってもらってもいいと思うのに、人への感謝の気持ちを忘れない心を持った加純ちゃんはえらいなと思いました。

